

# **Instrumental Band Ensemble**

## **Instrumental Ensemble - はじめに**

### **練習に掛けた時間とその人の才能は等しい**

音楽のスキルやセンスは、その人がどれくらい音楽に対し真剣に向き合ったか、どれくらい真剣に練習に取り組んだかによって変化してきます。

世界で活躍する一流ミュージシャン達もただ単純に音楽の才能に満ち溢れていたわけではありません。音楽を始めたばかりの初心者は「自分には音楽の才能があるのか、」「自分は音楽をすることに本当に向いているのか」といつも悩んでいます。しかし、音楽の才能は誰もが生まれながらに持っているものなのです。

人間は、何万年も前から音楽を奏で、その遺伝子が今も現代の人々の体に受け継がれています。しかし、その音楽の才能(遺伝子)が目に見えるくらいになるには1万時間の時間が掛かるといわれています。音楽に関わらずその他の分野でもプロフェッショナルといわれるクオリティーを手にするには、その1万時間というのが常識といわれています。このことは一見すると膨大の時間に感じるかもしれませんが、実はそうでもありません。この1万時間をクリアするには一日6時間を5年間続ければ達成出来、学校に入学する前から楽器に触れている人であれば、入学前までに費やした時間も含めます。ということは1日6時間の練習をもっと長時間練習すればさらに1万時間を達成する期間が短くなるということになります。したがって、在学中に行うアンサンブルの授業やその他必修授業はあなたの音楽人生にとっても大きく関わってくることになります。

## **プロミュージシャンになるための二大原則**

- **演奏する機会を逃さない** - 授業、病気、仕事を除き演奏する機会があれば必ず演奏すること。それがあなたの音楽人生に大きく影響してきます。  
「いつ、どこで、誰と、何を演奏するのか?」ということだけを重点的に演奏する機会を選別しているミュージシャンは、平凡なミュージシャンにしかたれません。
- **常に最高の演奏をする** - あなたが演奏する際、その対象が同級生や先生、音楽業界の方々など、どんな人の前でも常に最高の演奏を心がけ、最高の演奏をします。  
このことは、自分のミュージシャンとしての評判を上げるだけでなく、あなたが目指すミュージシャン像に真剣に向き合うということに繋がります。そのためには演奏する曲を覚えたり、スタイルの勉強(アナライズ)をすることは勿論のこと、クオリティーを高めていくための反復練習が必要になってきます。

この二大原則を継続的に実行することによって、必ず素晴らしいミュージシャンになれることでしょう。どれか一つだけ実行しても素晴らしいミュージシャンになることは出来ません。必ずこの二大原則を実行することが必須となります。

## **演奏準備の鉄則**

演奏する機会が授業にせよ、ライブにせよ、プロとアマチュアの違いはどれだけ万全の準備が出来ているか?ということになります。

- **資料を入手する** - ミュージシャンが曲を覚える際に必要なのは、譜面または音源資料です。もし両方を入手可能であれば早めに手に入れましょう。なぜなら、早めに手にすることにより、その曲に費やせる時間が増え、日々少しずつ演奏のクオリティーを上げることが出来るためです。
- **自分のことを知る** - 経験豊富なミュージシャンと経験の浅いミュージシャンとの違いは、1曲を演奏するための準備に費やす時間です。プロミュージシャンは譜面と音源をみることによって、その曲を演奏するために必要な大体の時間を予測すること出来ますが、アマチュアミュージシャンにはそれが出来ません。そのため、演奏準備にプロミュージシャンの5倍~10倍の時間を費やすことが多々あります。
- **120%の原則** - 人前で演奏するときは100%の準備をしたと思っても実際は緊張や思わぬトラブルから80%の実力しか発揮出来ません。したがって、準備は120%行わなければなりません。それが120%の原則です。
- **パート** - 曲をコピーする際は出来る限り原曲に近づけることが大切です。それにより、イヤートレーニングや採譜能力の向上に繋がります。

## プロミュージシャンへのはじまり

プロミュージシャンになるためには高い技術だけではなく、プロ意識、仕事への責任感が重要になってきます。

- **時間を守る** - 準備を万全にしても時間を守れなければ、自分の評価を落とすだけです。授業は常に時間を守り、プロ意識や責任感を養っていきます。
- **チューニング** - 演奏する前は必ずチューニングをする。  
プロミュージシャンでチューナーを持っていない人は一人もいません。
- **楽器・機材** - チューナー以外にも仕事に必要なと思われるものは自分のケースの中に入れ必ず持ち歩きましょう。(チューナー、メトロノーム、ケーブル、メンテナンス道具など)ドラマーであればスティックなど。
- **譜面** - プロの現場では頻繁に演奏内容が変更されます。そのため、受け取った譜面は大切に扱いファイルなどに整理し、筆記用具を必ず持ち歩きましょう。

## コミュニケーション力を付ける

- **演奏開始前** - 演奏開始の合図(カウント)を出す人が他のメンバーに気を配り、演奏準備が出来ているが確認(コミュニケーション)をとることにより、演奏開始がスムーズに進みます。
- **演奏開始カウント** - 原則的に曲の始まりで合図(カウント)を出す人はダブルカウントを用います。そうすることにより他のメンバーが曲を演奏するまでに十分な時間が与えられ、より完璧な演奏開始が可能になります。
- **エンディング** - 原則的に曲の開始はドラマーがカウントを出しますが、曲の最後もドラマーが合図を出すとは限りません。エンディングでは誰が合図を出すが決まっていないため、メンバー間のアイコンタクトやボディーランゲージが必要です。

## 授業を有意義なものにするために

- **いろいろなミュージシャンと演奏する** - 出来るだけ多くのミュージシャンと演奏することにより、コミュニケーション力が向上し人脈が広がると同時に自分自身のプロモーション活動にもなります。
- **他のミュージシャンの演奏をよく聞く** - 自分と同じ楽器を演奏するミュージシャンのプレイをよく聴き、自分との弾き方やニュアンスの違いを見つけ、演奏力向上に努める。
- **アドバイスをよく聞く** - 先生から与えられるアドバイスを素直に受け止め、その他のミュージシャンに対するアドバイスもよく聞き、自分の演奏に置き換えましょう。

## Week 1

第 1 回目のアンサンブル授業のテーマは、リズムに気をつけて皆と上手くコミュニケーションをとり、バランスよく演奏することです。そのためには曲の始まりと終わりでメンバー間とのアイコンタクト等の合図をしっかりと出さなければいけません。

Amin F C G

5 C G Dmin F G

*D.C. al Fine*

9 A<sup>b</sup> B<sup>b</sup> C

**Guitar Part 1:** 音色をクランチに設定し、オープンコードで弾きましょう。

**Amin**  
X 0 2 3 1 X

Amin

**F**  
1 3 4 2 1 1

F

**C**  
X 3 2 0 1 X

C

**G**  
2 1 0 0 3 4

G

**Guitar Part 2:** 音色を少しドライヴに設定し、ブリッジミュートしたパワーコードを 8 部音符で演奏しましょう。

**A5**  
1 3 X X X X

Amin

**F5**  
1 3 X X X X

F

**C5**  
X 1 3 X X X

C

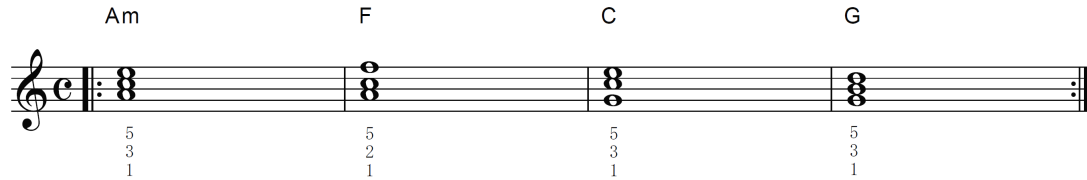
**G5**  
1 3 X X X X

G



キーボード(=鍵盤楽器)の練習では運指がとて重要となります。運指とはどの音をどの指で弾くか、という事です。また、その動きを指します。場面に応じた運指が出来るかどうかで演奏力は大きく変化します。手の大きさには個人差があり、それによって有効な運指も様々です。自分にあった運指を早く見つけ、常に決まった運指で練習する事が重要です。

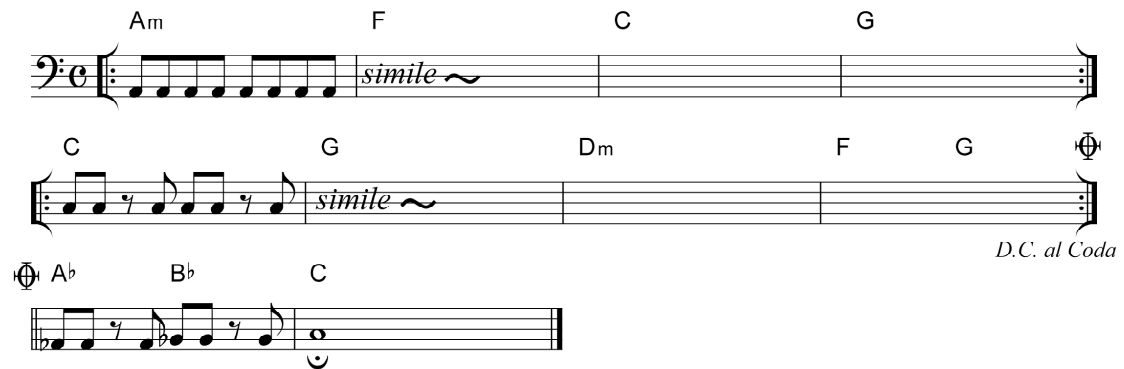
### Keyboard Part 1: 全音符で運指の確認:



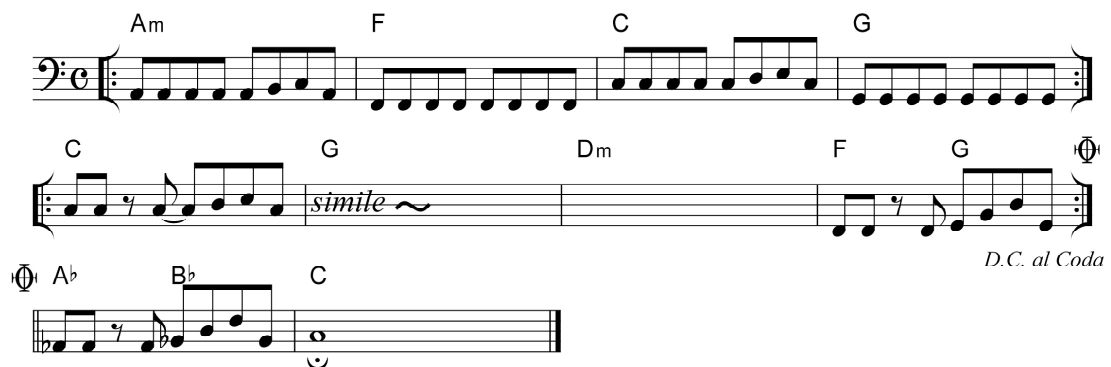
### Keyboard Variation: リズムをつける:



**Bass:** コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、8分休符は左手か右手でしっかりビートに合わせて Mute する。フレーズの所は音が繋がるように演奏する。



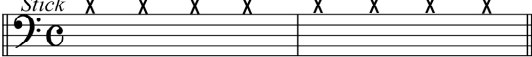
### Bass Variation:



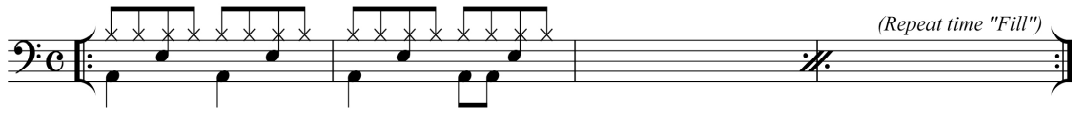
**Drum:** カウントはダブルバーカウント(2小節カウント)で。曲がスタートするまでの助走期間が長く、メンバー全員のテンポ感が一致しやすい利点がある。他によくある始め方としては、1小節のカウントやピックアップフィル等がある。基本ビートに関しては、2小節パターンの繰り返しを的確に出来るようにする。4小節や8小節の大きな単位も感じる事ができるようにする。

Rock 8 beat ♩  $\text{♩} = 130$

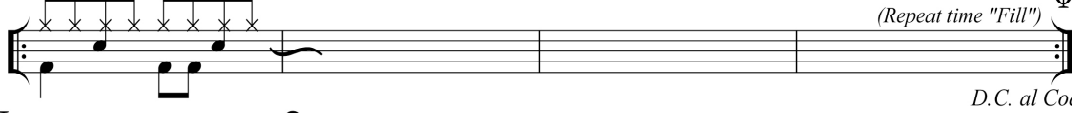
Count	Stick	1	2	3	4
	X	X	X	X	X




(Repeat time "Fill")




(Repeat time "Fill")



D.C. al Coda

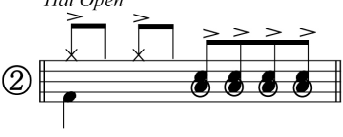


Fill Sample ①



Hat Open

②



## Week 2

1950 年代に西洋の古典和声とアメリカのブルースが融合してロックンロールが生まれました。また、ブルースもソウル、R&B、ファンク、ジャズなど、数えきれないジャンルの影響を受けています。このブルースというジャンルは、日本の俳句にとってもよく似て、俳句に五・七・五という音節があるように、ブルースにもこれとよく似た決まりが存在します。

ブルースの基本形は 12 小節から成りコード進行にもパターンが存在します。また、ブルースで使われるコードも”ドミナントコード”といわれる、7th コードが使われることが殆どです。

下記に挙げたコード進行にはいろいろな決まりや呼び方が存在するのでまずはそこから覚えましょう。まず、下記譜例の 2 小節目”(A7)”の箇所ですが、こちらは I のコードから IV のコードに行くことを意味し、この場合の IV コードに映る状態を”クイックチェンジ”といいます。

また、最終 2 小節の I-V のコード進行の流れを”ターンアラウンド”といい、最初の I コードにスムーズに戻るよう使用します。

この二つの言葉はプロミュージシャンの会話の中で頻繁に出てくる言葉であり、ブルースはこれから学ぼうとしている様々なジャンルの基本となるものなのでしっかり習得しましょう。

<b>I</b>	<b>(IV)</b>	<b>I</b>	<b>I</b>
<b>IV</b>	<b>IV</b>	<b>I</b>	<b>I</b>
<b>V</b>	<b>IV</b>	<b>I</b>	<b>V</b>

ブルースのコード進行は聴く人にとって自然な状態でなければなりません。

今週の曲を勉強する前に、上に挙げた例を参考に下記譜例の空欄に入るコード名を入れましょう。

12 小節の A メジャーブルース(クイックチェンジ):

<b>A7</b>			
<b>D7</b>			<b>A7</b>
	<b>D7</b>	<b>A7</b>	

12 小節の E メジャーブルース(クイックチェンジなし):

		<b>E7</b>	
		<b>E7</b>	
<b>B7</b>			

12 小節の C メジャーブルース(クイックチェンジ):

<b>C7</b>			

12 小節の Bb メジャーブルース(クイックチェンジなし):

<b>Bb7</b>			

基本的にブルースはシャッフルリズムから成っていますが、1950 年代に代表される Johnny B. Goode/  
 チャック・ベリーや Good Golly Miss Molly/リトル・リチャードなどはストレートな 8 ビートが特徴です。  
 それでは今週は 12 小節ブルース(クイックチェンジ)をロックフィールで演奏してみましょう。

E7                      A7                      E7



5                      A7                      E7



9                      B7                      A7                      E7                      A7                      E7 A A# B



D.C. al Coda

13                      E7                      E7 F9 E9



**Guitar:** 以下にストレートフィール、シャッフルフィール両方に使える代表的なギターパートを挙げます。

E7                      A7



キーボードでのブルース進行を練習します。ブルース進行は何度も練習して、パターンを覚えましょう。  
あらゆる調でのブルース進行が弾けるようになる事が理想です。

**Keyboard Part 1:** 全音符で運指の確認。

The first system consists of two staves. The top staff contains four measures of whole-note chords: E7, A7, E7, and E7. Each chord is accompanied by fingerings: 5, 2, 1 for E7 and 5, 2, 1 for A7. The bottom staff contains two measures of whole-note chords: A7 and E7, also with fingerings 5, 2, 1.

The second system consists of one staff with five measures of whole-note chords: B7, A7, E7, A7, and E7 A A# B. Each chord is accompanied by fingerings: 5, 2, 1 for B7, A7, and E7; and 1, 2, 3, 4 for the final measure (E7 A A# B).

**Keyboard Variation:** 8分音符。

The notation shows two measures of eighth-note patterns. The first measure is for E7 and the second for A7. Each measure contains four groups of eighth notes, each group consisting of a pair of eighth notes (e.g., G4 and A4 for E7). The pattern ends with a wavy line indicating a continuation or improvisation.

**Bass:** コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、あらゆるキーでも弾けるようにブルースコード進行をしっかりと覚えてください。

E7 A7 E7  $\text{simile}$   $\text{D.C. al Coda}$

A7  $\text{D.C. al Coda}$  E7  $\text{D.C. al Coda}$

B7 A7  $\text{D.C. al Coda}$  E7 A7 E7 A A# B7

$\text{D.C. al Coda}$  E7 E7 F# E9

### Bass Variation:

E7 A7 E7  $\text{simile}$   $\text{D.C. al Coda}$

A7  $\text{D.C. al Coda}$  E7  $\text{D.C. al Coda}$

B7 A7  $\text{D.C. al Coda}$  E7 A7 E7 A A# B7

$\text{D.C. al Coda}$  E7 E7 F# E9

**Drums:** カウントに関して、歯切れよく発声した方がバンド全体のパルスの共有の精度が上がる場合が多い。12小節目にキメ絡みでフィルを入れてみよう。エンディングのブレイク時にフラムを使ってアクセントを強調した例を記譜してみた。クラッシュシンバルとバスドラムのユニゾンによるアクセントワークは両者が確実に一致するまで何度も練習が必要です。

8 beat Blues ♩ 126

Count Stick

## Week 3

今週はシャッフルフィールで演奏します。  
前回練習した 12 小節ブルースを違うキーのシャッフルフィールで演奏しましょう。

G7 C7 G7

C7 G7

D7 C7 G7 C7 G7 C C# D

D.C. al Coda

G7 G7 G#9 G9

### Guitar Part 1: 一般的なシャッフルブルースのギターパート:

G7 C7

### Guitar Part 2 (バリエーション): その他、一般的なバリエーション:

G7 C7

### Guitar Part 3: ピアノの右手パートのボイスニングを意識した一般的な演奏例:

G13 D9

G13 C9



**Keyboard:** シャッフルでのプレイ感覚を体で覚えることが大切です。4分音符でビートの頭を理解



**Keyboard Variation 1:** 8分音符でのパワーコード  
G7



**Keyboard Variation 2:** 頭を休符にしてシャッフル感の練習



**Bass:** コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、3 連符を感じつつ、2 拍&4 拍でタイミングをはかるよう演奏する。

### Bass Variation:

**Drum:** カウントに絡めてシンプルなフィルでスタートさせる。ハイハットやライドシンバルでの「刻み」が非常に重要。拍のアタマとウラのニュアンス出しにチャレンジしよう。譜面は3連符表記してあるが、厳密には書き表す事が難しいタイミングのフィールも多い。コーダに入る手前(エンディング前)には「終了」の気配を感じさせるフィルがあると音楽的。

Shuffle Blues ♩ 116

Count Stick

1 X X X X 2 X X 3 X

(D.C. time "Fill")

Foot Hats

D.C. al Coda

Fill Sample ① ②

## Week 4

多くの場合ブルースは 12 小節で演奏されますが、まれに 8 小節のブルースも演奏することがあります。この 8 小節ブルースもブルースの基本形の一つで、コード進行にも一つのパターンが存在します。一つの例として、“Key to the Highway”/ Charlie Segar という曲があります。この曲は 数えきれないほどのアーティストによってカバーされ、1958 に発表された William “Big Bill” Broonzy/Little Walter”や 1970 年に発表された Eric Clapton の曲にもこのコード進行が使用されています。今説明したコード進行を下記へ挙げますので練習してみましょう。

<b>I</b>	<b>V</b>	<b>IV</b>	<b>IV</b>
<b>I</b>	<b>V</b>	<b>I</b>	<b>V</b>

上記コード進行を参考に、下記譜例の空欄に最適なコード進行を書きましょう。

8 小節の A メジャーブルース

<b>A7</b>			
<b>A7</b>			<b>E7</b>

8 小節の C メジャーブルース

<b>C7</b>			

8 小節の G メジャーブルース

<b>G7</b>			

それでは 8 小節ブルースをシャッフルフィールで演奏してみましょう。  
 まず、最初の 8 小節は基本的な 8 小節ブルースのコード進行ですが、後半に”ブリッジ”が存在します。  
 この”ブリッジ”は 8 小節及び 12 小節ブルースに頻繁に使用されるのでしっかり覚えましょう。

A7 E7 D7

5 A7 E7  $\emptyset$  A7 D7 A7 E7

9 D7 A7

13 D7 B7 E7

*D.C. al Coda*

$\emptyset$

17

#### Guitar:

A7 E7

~

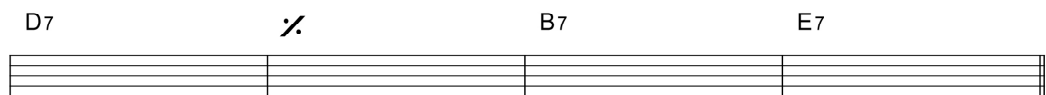
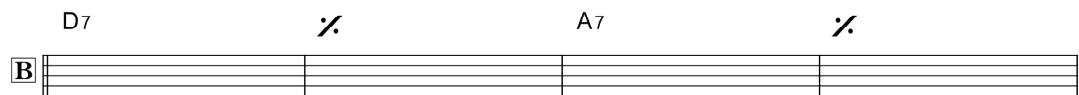
**Keyboard:** ブルース進行の応用。キーボードでの役割を練習します。8分音符でのパワーコード



**Keyboard:** パワーコードに動きを付けた練習



**Bass:** コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、フレーズ的な所は音が繋がるよう演奏する。



*D.C. al Coda*



**Bass Variation:**



*D.C. al Coda*



**Drum:** この表記の仕方でもよく目にするパターン。普通の8ビートと混同しないように必ず最初に注釈を入れてある。前半はハット、後半はライドと打ち分ける等するとサウンドに広がりが生まれる。エンディングはハットオープンを使った少しラウドな例である。

Shuffle Blues ♩ 120

Count Stick

1 2 1 2 3

X X X X X X X

(D.C. Time Repeat)

4

(Before Ending "Fill")

8 (Fill)

Ride

4

8 (Fill)


Hat Open

D.C. al Coda


## Week 5

今週はシンコペーションリズムについて練習したいと思います。シンコペーションとはある音符の裏拍から、次の音符の強拍までをタイによりひとつの音としてつなげている状態で、“くう”や“くい”という言い方をしたりします。シンコペーションは多くのスタイルで多用されるリズムでとても重要です。

Amin Dmin C G F G




C G/B Amin F G



$\emptyset$  D.C. al Coda

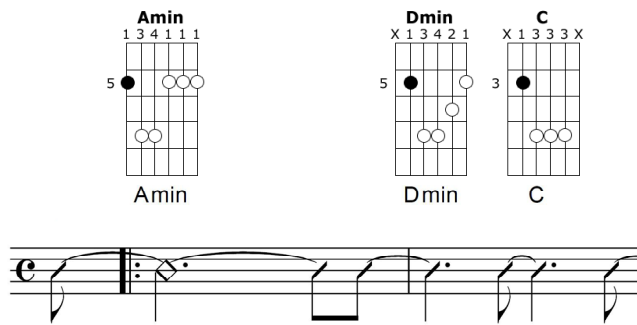
Amin G F G Ab Bb C C



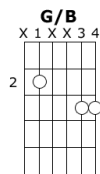
Fine



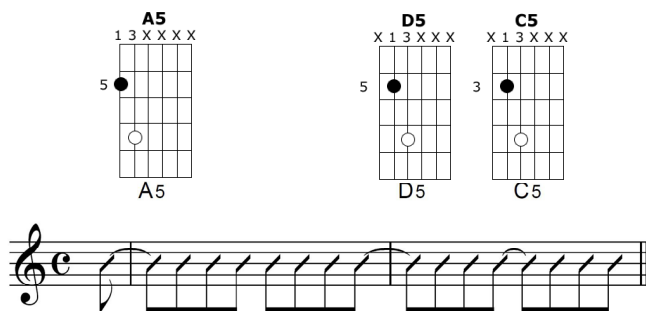
**Guitar Part 1:** Part 1 では指定されたトライアドコードでシンコペーションの練習をしましょう。



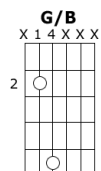
一般的に **G/B** のような分数コードは（トライアドコードの第 1 転回形または、トライアドコードの 3 度の音をベースに置いて演奏します。）下に例をあげます。



**Guitar Part 2:** Part 2 ではミュート奏法を使った八分音符のシンコペーションを練習しましょう。



パワーコードが頻繁に出てくるコード進行の場合、G/B コードは Gトライアドコードの第 1 転回形を使います。次回はこの分数コードを使うコード進行について学びましょう。



シンコペーションは、殆どどの楽曲に何らかの形で含まれているリズムです。キーボードでシンコペーションを弾く場合、リズムが突っ込みがちになりやすいので意識して注意しましょう。シャッフル等と同じ様に正しいタイミングを体の感覚で覚える事が大切です。

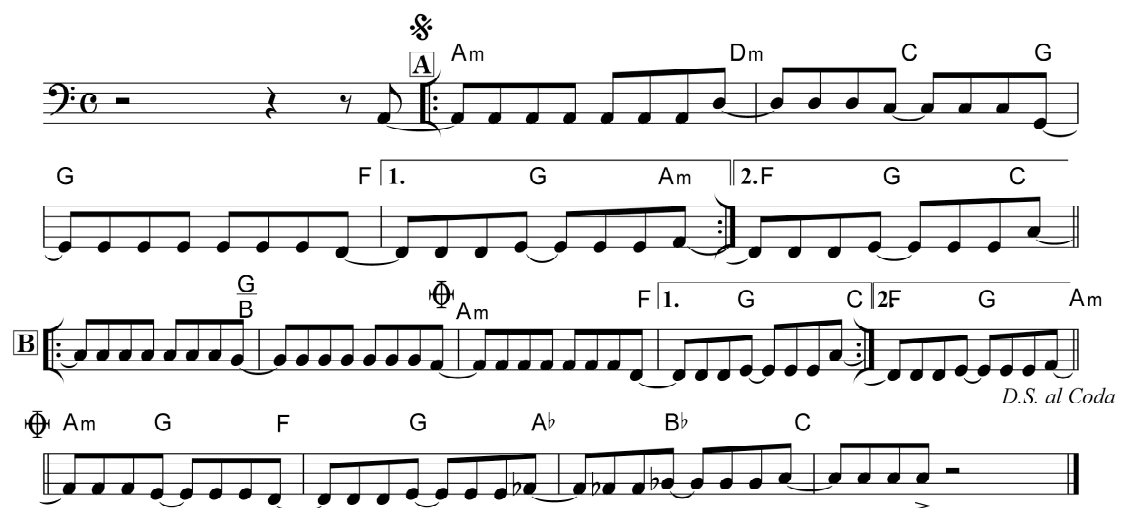
**Keyboard Part 1:** シンコペーション以外は伸ばす音で



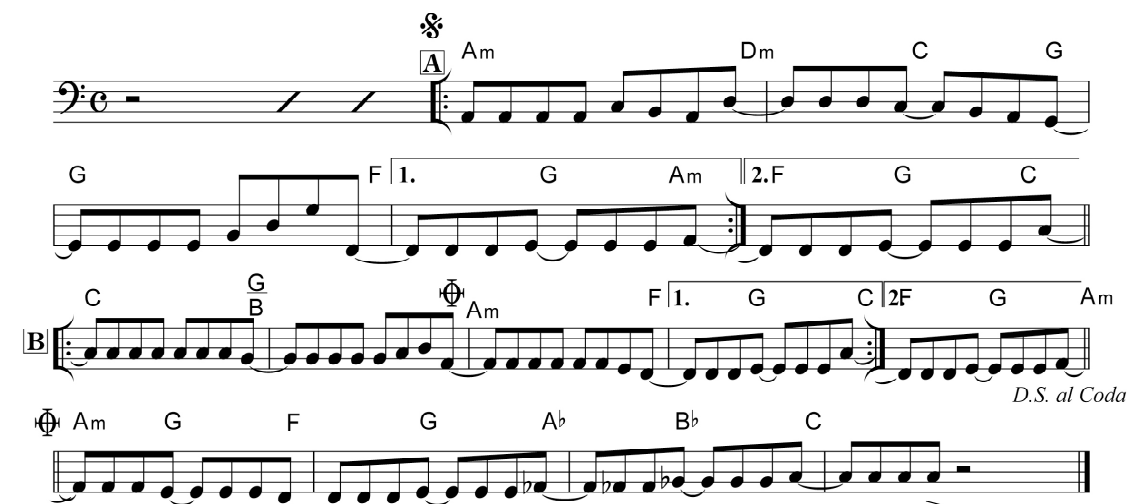
**Keyboard Part 2:** 8 分音符でのプレイを基本にシンコペーションを含ませる練習



**Bass:** シンコペーションした後のリズムに気をつけてプレイしよう！



**Bass Variation:**



**Drums:** シンコペーションの感覚を練習。キックがウラで登場するので、それにつられてハットやスネアが不安定にならないように。キメの間にスネアやタムで埋める代表的なセクションアプローチを記してある。コーダ内最後のアクセントは通常のものよりもサウンドを「太く」余韻を「短く」という記号で表されている。

Rock 8 Beat ♩ = 126

Count 1 2 1 2  
Stick X X X X X X

(D.C. Time Repeat)

*mf*

## Week 6

今週のテーマは前回同様、シンコペーションのリズムが多く入っています。それと同時に分数コードも多く見られます。一般的に分数コードは分母に示された音と、分子に示された和音を同時に弾くことですが、分母で示された音が必ずしもコードの根音とは限りません。

例えば、コードの転回型を作るときに発生する、基となるコードの3度、5度、7度を分数コードの根音として使用する場合です。また、分数コードを使用することにより、9<sup>th</sup>や11<sup>th</sup>のテンションコードを簡潔に表現することも出来ます。例として譜例2小節目のBb/C(BbトライアドコードにCを根音として使用)スラッシュコードはmin11コードの響きがします。

譜例ではベーシストがC音を8小節弾き、(常に同じ音を弾いています。)次の分数コードを弾く場面が来たらBb/AbコードのAbを弾きます。このAbの音はBbからのb7<sup>th</sup>の音になり、Bb7コードの7<sup>th</sup>ベースと考えられるでしょう。

また、13小節目のBb/DコードではBbトライアドの3rdにあたるDの音が根音になっています。14小節目のAb/EbではAbトライアドコードの5<sup>th</sup>が根音になっています。

ここでのポイントは分数コードの分子にあたるコードが下降しているのに対し、根音が上昇しているという点です。これを“contrary motion”といいます。

1 C-7 Bb/C C-7 Bb/C

5 C-7 Bb/C C-7 C-7 Bb/C

9 Ab Bb/Ab Ab Ab Bb

13 C- Bb/D Ab/Eb Bb

D.C. al Coda

15 Cm Bb/D Ab/Eb Bb Cm

**Guitar Part 1** – 以下に挙げるコード進行ではベーシストが根音を弾いているため、ギターパートが根音を弾く必要はありません。しかし、ロックスタイルの場面ではギタリストも根音を弾く場合があります。

**Cmin7**  
2 X 3 3 3 X

**Bb/C**  
3 X 4 2 1 X

5 C-7

B<sup>b</sup>/C

C-7

C-7

B<sup>b</sup>/C

**A<sup>b</sup>**  
1 3 4 2 1 X

**Bb/Ab**  
2 X 1 1 1 X

**B<sup>b</sup>**  
X 1 3 3 3 X

9 A<sup>b</sup>

B<sup>b</sup>/A<sup>b</sup>

A<sup>b</sup>

A<sup>b</sup>

B<sup>b</sup>

**Cmin**  
X 1 3 4 2 1

**Bb/D**  
X 3 1 1 1 X

**A<sup>b</sup>/E<sup>b</sup>**  
X 3 4 2 1 X

**B<sup>b</sup>**  
X 1 3 3 3 X

13 C-

B<sup>b</sup>/D

A<sup>b</sup>/E<sup>b</sup>

B<sup>b</sup>

シンコペーションの応用実際の曲ではシンコペーションする所としない所が混在しています。  
譜面(コード譜を含む)を見て、シンコペーションするのかないのか素早く判断しなければなりません。

**Keyboard Part 1:**シンコペーションする所以外は伸ばす音で練習

Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C Cm7

**Keyboard Part 2:**4分音符でのプレイを基本に、8分のシンコペーションに応用する練習

Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C Cm7

**Bass:** 8分休符は左手か右手でしっかりビートに合わせて Mute し、シンコペーションした後のリズムに気をつけて演奏する。

Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C Cm7

5 Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C

9 A♭ B♭/A♭ A♭ A♭ B♭ Cm7


13 B♭/D A♭/E♭ B♭ Cm7

*D.C. al Coda*


15 Cm7 B♭/D A♭/E♭ B♭ Cm7

**Bass variation:**


Cm7 B $\flat$ /C Cm7 Cm7




5 Cm7 B $\flat$ /C Cm7 Cm7



9 A $\flat$  B $\flat$ /A $\flat$  A $\flat$  A $\flat$  B $\flat$  Cm7




13 Cm7 B $\flat$ /D A $\flat$ /E $\flat$  B $\flat$  Cm7



*D.C. al Coda*

15 Cm7 B $\flat$ /D A $\flat$ /E $\flat$  B $\flat$  Cm7



⌘

**Drums:** シンコーペーションをハットオープンでアプローチする例。キック、シンバルを使った大掛かりなキメとの連動にチャレンジ。エンディングの3連符を使ったフィルはクラシックロックでは王道のフレーズ。コンビネーションフィルの代表的なものである。

Med Rock 8 Beat ♩ = 116

Count Stick

1 2 1 2

X X X X X X X X

Ride

D.C. al Coda



## Week 7

今週はレゲエについて学びましょう。

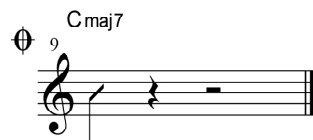
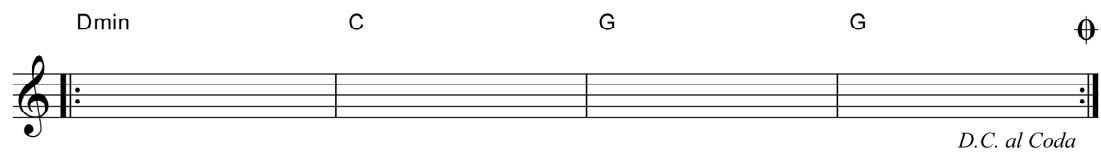
レゲエは 1960 年代にジャマイカという国から盛んに演奏されるようになったジャンルの一つで、スカとロックステディー、アメリカの R&B を融合させた音楽です。

レゲエの特徴は”スカよりゆっくりのテンポ”で、”ロックステディーより速い”ということに加え、アクセントが”オフビート(2 拍目と 4 拍目)”に置かれているという二つの特徴があります。

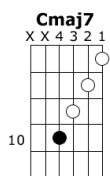
また、あらゆるロックミュージシャンにも愛され、Eric Clapton は ”I Shot the Sheriff” という曲でレゲエのリズムを起用しています。

1970 年代にはレゲエのリズムを取り入れた全く新しいジャンルが誕生します。それが The Clash に代表される PUNK や The Police などのバンドです。

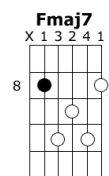
Bob Marley や Peter Tosh はレゲエというジャンルを代表するアーティストなのでこの機会に聞いてみて下さい。



### Guitar:



Cmaj7



Fmaj7



**Keyboard:** レゲエでのスタンダードな演奏を練習します。ここでは同じパターンを使い、スタッカート(=音を短く切る)とテヌート(=音を音符いっぱいまで弾く)の違いを理解します。

CM7 FM7

Dm C G

CM7

**Bass:** 2 拍&4 拍をしっかりと感じてリズムが走らないように気をつけながら演奏する。

♩=♩♩ Cmaj7

Dm C G

♩ Cmaj7

D.C. al Coda

### Bass Variation:

♩=♩♩ Cmaj7

Dm C G

♩ Cmaj7

D.C. al Coda

**Drums:** ダブルバーカウントだがピックアップフィルが入る典型的な例。”Straight”と表記したように、まずは「ハネ」ないフィールでトライ。レゲエのグルーヴは独特。キックを少し重いイメージでしっかり踏み、ハットはしっかり閉じたタイトなサウンドをキープすると雰囲気は出しやすい。  
スネアは「リムショット」とも言われるクロススティック奏法で演奏する。

Reggae(Straight) ♩ = 150

Count 1 2  
Stick X X X X

Dr. Pick Up

(D.C. Time Repeat)

Tight Close Hat

(Fill)

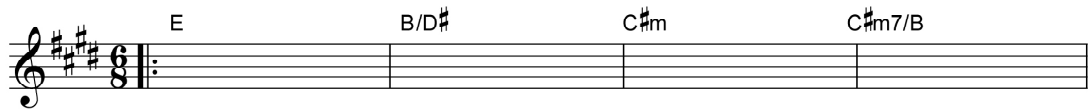
D.C. al Coda

Fill Sample

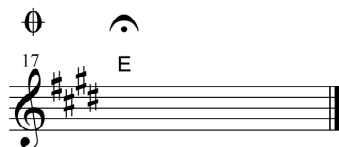
The musical score is written for a drum set in 4/4 time at 150 BPM. It features a 'Tight Close Hat' pattern in the first staff, a 'Dr. Pick Up' section in the second staff, and a 'Fill Sample' section in the third staff. The score is marked with 'D.C. Time Repeat' and 'D.C. al Coda'.

## Week 8

今週は 6/8 拍子について紹介していきたいと思います。この曲調は 50 年代～60 年代初頭にかけてよく聴かれるようになりました。代表的な曲には(“When a Man Loves a Woman” performed by Percy Sledge)があり、3 連符のリズムと、4 拍目にコードカッティングを弾くのが特徴的です。



*D.C. al Coda*



**Guitar Part 1** – 以下は 3 連符のアルペジオを強調させたパターンです。

**E**

E

**B/D#**

B/D#

**Guitar Part 2** – 4 拍目に弾く歯切れの良いコードカッティングを弾く際に、分数コードが出てきたときはベース音を無視し分子部分のコードのみ弾くと良いでしょう。

E

B/D#

**Keyboard** –

E

B/D#

C#m

C#m7/B

A

D/F#

B

B7/D#

E

B/D#

C#m

C#m7/B

A

D/F#

B

B7/D#

A  
1.

E

A

F#7

B7

E  
2.

**Bass** - スネアにタイミングを合わせ、リズムがはしらないようにしっかりキープしよう。

Score for Bass (A and B parts) with Chord Progressions:

**Part A:**

- Staff 1: E, B $\frac{D\#}{D\#}$ , C $\sharp$ m, C $\sharp$ m B
- Staff 2: A, D $\frac{F\#}{F\#}$ , B, B $\frac{D\#}{D\#}$  (Coda symbol)

**Part B:**

- Staff 1: A,  $\text{simile}$  (Coda symbol)
- Staff 2: A, F $\sharp$ 7, B7

Final Chord: E (Coda symbol)

*D.C. al Coda with Repeat*

### Bass Variation -

Score for Bass Variation (A and B parts) with Chord Progressions:

**Part A:**

- Staff 1: E, B $\frac{D\#}{D\#}$ , C $\sharp$ m, C $\sharp$ m B
- Staff 2: A, D $\frac{F\#}{F\#}$ , B, B $\frac{D\#}{D\#}$  (Coda symbol)

**Part B:**

- Staff 1: A,  $\text{simile}$  (Coda symbol)
- Staff 2: A, F $\sharp$ 7, B7

Final Chord: E (Coda symbol)

*D.C. al Coda with Repeat*

**Drums** - リズムのクラスター(かたまり)が3つの音で構成されている形に特徴がある。3連符と解釈して4/4拍子内で表記される場合もあるが、代表的な例として6/8拍子で記譜されたパターンを載せた。クラスターが2つで1小節の捉え方をする。数々の名曲に取り入れられたワールドスタンダードなフィール“ロッカバラード”である。細かいフレーズを組み込む事もよくあり、ハネたりハネなかったりなどのニュアンスも多彩に見られる。

Slow(Trip Feel) *Count Stick*

(D.C. Time Repeat)

4

8 (Fill)

Ride

4

8 (Fill)

D.C. al Coda

Fill Sample

①

②

## Week 9

今週はマイナーブルースについて紹介します。

今回のコード進行も基本的な 12 小節ブルース進行になっていますが、通常ブルースはシャッフルやロック調で演奏することがほとんどですが、マイナーブルースはよりファンキーに演奏することが多いのが特徴です。

それでは 2 つの代表的なマイナーブルース進行を紹介していきましょう。

**Minor Blues Variation 1** - このコード進行は基本的にメジャーブルースのコード進行をマイナーコードへ変更したものになります。また、I のコードにスムーズに繋げるため V のコードがマイナーコードではなく、ドミナントコードを弾く場合があります。

このマイナーブルースコード進行の良い例として、“Green Onions” /Booker T and the MGs、“Help Me” /Sonny Boy Williamson が挙げられます。

<b>i</b>	<b>i</b>	<b>I</b>	<b>i</b>
<b>iv</b>	<b>iv</b>	<b>I</b>	<b>i</b>
<b>v</b>	<b>iv</b>	<b>I</b>	<b>(V)</b>

上記コード進行を参考に、下記譜例の空欄に最適なコード進行を書きましょう。

12小節の A マイナーブルース

<b>Amin7</b>			
<b>Dmin7</b>			
<b>Emin7</b>			<b>E7</b>

12小節の C マイナーブルース

<b>Cmin7</b>			
			<b>G7</b>

12小節の G マイナーブルース

<b>Gmin7</b>			

12小節の F マイナーブルース

<b>Fmin7</b>			



**Minor Blues Variation 2** – 次に紹介するコード進行は bVI と V のコードを含んでおり、ドミナントコードで弾きます。I と IV コードに関しては min コードまたは min7th コードを弾きます。このマイナーブルースコード進行で代表的な曲は “The Thrill is Gone” released in 1969 by B.B. King の曲です。

<b>i</b>	<b>i</b>	<b>i</b>	<b>i</b>
<b>iv</b>	<b>iv</b>	<b>i</b>	<b>i</b>
<b>bVI</b>	<b>V</b>	<b>i</b>	<b>V</b>

上記コード進行を参考に、下記譜例の空欄に最適なコード進行を書きましょう。

12小節の A マイナーブルース

<b>Amin7</b>			
<b>Dmin7</b>			
<b>F7</b>	<b>E7</b>		<b>E7</b>

12小節の C マイナーブルース

<b>Cmin7</b>			
<b>Ab7</b>			<b>G7</b>

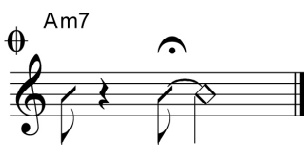
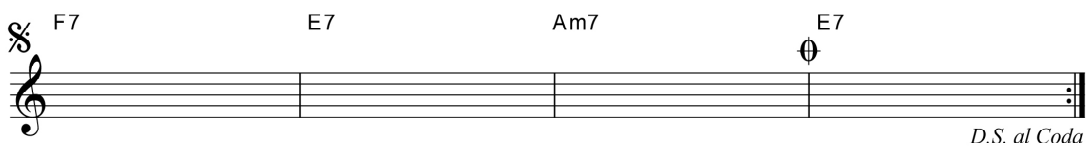
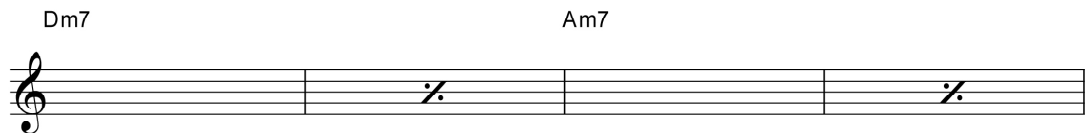
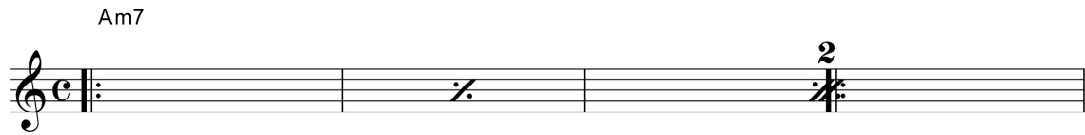
12小節の G マイナーブルース

<b>Gmin7</b>			

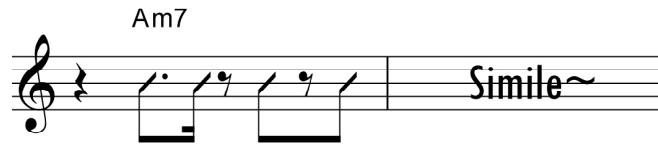
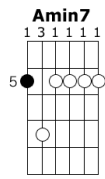
12小節の D マイナーブルース

<b>Dmin7</b>			

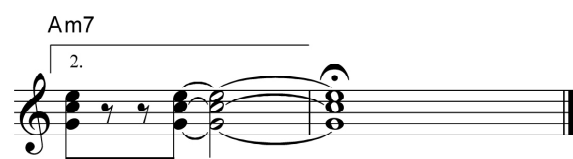
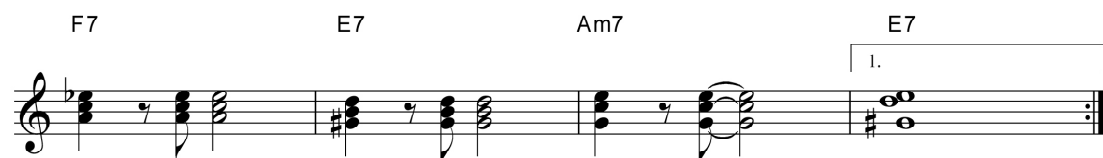
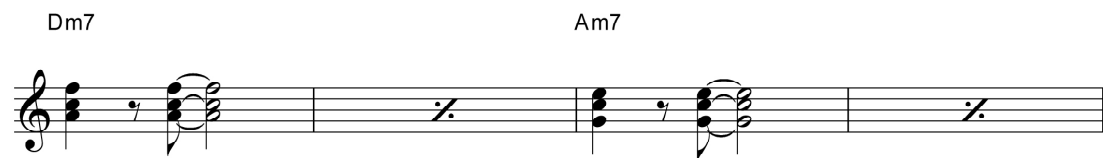
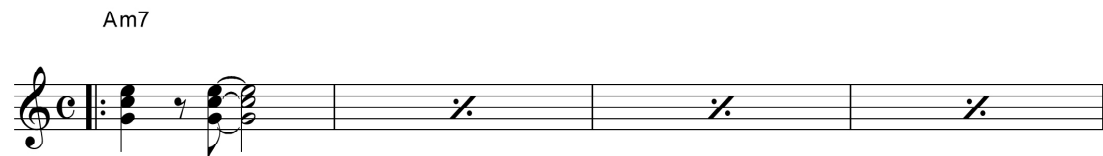
今週はミディアムテンポのファンクリズムで 1 小節目から 12 小節目まで演奏し、リピートマークまで来たら 1 小節目まで戻りサイド 12 小節目まで演奏します。そのあと“D.S al Coda”からセーニョマークに戻り、コーダマークが来たら、13 小節目のところまで移動し演奏します。



**Guitar Part 1** -このコードを演奏するときは 1~3 弦の音を強調させるように弾くと良いでしょう。



**Keyboard -**



**Bass** - 8 分音符のウラを意識してタイトにプレイしよう。Fill in のパターンも考えて入れてみよう。

The musical score for 'The Rose Tree' is presented in three systems. The first system features a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 3/4 time signature. The melody begins with a quarter note G4, followed by an eighth rest and an eighth note A4, then a quarter note Bb4, and a quarter note A4. This is followed by a 'simile' marking and a fermata. The second system consists of three empty staves. The third system continues with the melody: a quarter note F4, a quarter note E4, a quarter note D4, and a half note C4. The piece concludes with a double bar line and a repeat sign. Below the first system, there is a section labeled 'D.C. al Coda' with a Coda symbol (a circle with a cross) and a key signature change to one sharp (F#), indicating a key change to D major for the final section. This section begins with a treble clef, a key signature of one sharp, and a 3/4 time signature. The melody starts with a quarter note D5, followed by an eighth rest and an eighth note E5, then a quarter note F#5, and a quarter note E5. The piece ends with a double bar line and a repeat sign.

Bass Variation :

Am7



**Drums** - 8ビートの基本型(特に KICK のパターン)に SNARE の 16 分音符フレーズを追加してジャンプフィールを強調した例である。少しファンキーな感じになり「リズムのクッション」が表現しやすく R&B などによく耳にすることが出来る。SNARE に関しては、バツビートのポイント以外(ゴーストノート)のニュアンス出しが個性を磨く上でも重要になってくる。2 カッコ内はエンディングのキメに向かってしっかりビルドアップすること。

16 Beat Feel

Count Stick

1

2

X X X X

Fill In Start

4

8

12 (Fill)

1.

2.

Fill Sample

Count Stick

1

2

X X X X

1

Rythm Pattern Variation

**Week 10** - この 16 小節ブルース・ロックスタイルのグルーヴはスティーヴィー・レイ・ヴォーンの曲から抜粋しました。このパターンでは出来るだけベースとギターのユニゾンラインを合わせられるようにして演奏して下さい。

The musical score is written in E major (three sharps) and 4/4 time. It consists of five staves of music. The first staff shows the key signature and time signature. The subsequent staves contain the melody with various chords indicated above the notes: E7(#9), B7(#9), and A7. The score includes repeat signs and first, second, and third endings.

Staff 1: E7(#9) E7(#9)

Staff 2: E7(#9) B7(#9)

Staff 3: E7(#9) A7

Staff 4: E7(#9) B7(#9) E7(#9) 1.2.

Staff 5: E7(#9) 3.

**Guitar Part 1** - #9 コードはジャズでは頻繁に出てくるコードですが、このコードはジミ・ヘンドリクスが使用したのがきっかけで今では多くのブルースやファンクなどのポピュラー音楽で使用されるようになりました。

**E7#9**  
X 2 1 3 4 X

E7(#9)

**E7(#9)**

**Keyboard** – リズム隊とのコンビネーションが大切です。パーカッシブな演奏を心がけて音符の長さや休符の長さを調整してみましょう。

1.2.

3.



**Bass** - ファンクベースの基本グルーブとして様々なジャンルに応用できるパターンです。16ビートを感じながらアタックに注意して、自分のモノになるまでフレーズバリエーションも練習しましょう。

E 7(#9)

E 7(#9) B 7(#9)

E 7(#9) A 7

E 7(#9) B 7(#9)

1.2.  
E 7(#9)

3 E 7(#9) x 3

## Bass Variations –

### Variation 1:

E 7(#9)



### Variation 2:

E 7(#9)

Diagram 10: E 7(#9) in bass clef, 4/4 time. The notes are E2 (half note), G#2 (quarter note), B2 (quarter note), and D#2 (quarter note). The key signature has three sharps (F#, C#, G#).

### Variation 3:

E 7(#9)

**Drums** - ジェームス・ブラウンバンドに代表される古典的ファンクの形。8 分音符の強烈なスリッ  
 ビートが特徴。拍のアタマとウラをしっかり意識する事が重要。16 分音符のゴーストサウンドのコントロ  
 ールによってよりスピード感が出てくる。キメ(ブレイク前のウラ止まり)は迷わずプレイするように。出来  
 ればメタルのスネアでトライしてもらいたい。

♩ = 150

( ♩ ♩ ♩ ♩ )

4

8

12

16

1.

2.

Fill

Fill

**Chapter 11** -今週の課題はポピュラーロックのグルーヴです。連続するシンコペーションとユニゾンフレーズをみんなでズレないように気をつけて演奏しましょう。

♩ = 130

♯ C G F C

*simile* ~

F Dm  $\Phi$  G G

Am F G Am B $\flat$  F

Am B $\flat$  F G G

D.S. al coda

$\Phi$  G G

**Guitar** -Aセクションは5フレットのポジションをキープしたままのヴォイスニングで演奏します。Bセクションはパワーコードです。

Chord diagrams for C, G, F, and C chords are shown above the staff. The C chord diagram shows the 5th fret on the 2nd string. The G chord diagram shows the 8th fret on the 3rd string. The F chord diagram shows the 8th fret on the 1st string. The C chord diagram shows the 5th fret on the 2nd string.

The staff shows the following notes: C (5th fret, 2nd string), G (8th fret, 3rd string), F (8th fret, 1st string), and C (5th fret, 2nd string). The staff is marked with a *simile* symbol.

Chord diagrams for F, Dmin, and G chords are shown above the staff. The F chord diagram shows the 8th fret on the 1st string. The Dmin chord diagram shows the 5th fret on the 2nd string. The G chord diagram shows the 8th fret on the 3rd string.

The staff shows the following notes: F (8th fret, 1st string), Dmin (5th fret, 2nd string), G (8th fret, 3rd string), and G (8th fret, 3rd string).

Chord diagrams for Amin, F, G, Amin, Bb, and F chords are shown above the staff. The Amin chord diagram shows the 5th fret on the 2nd string. The F chord diagram shows the 1st fret on the 1st string. The G chord diagram shows the 3rd fret on the 3rd string. The Amin chord diagram shows the 5th fret on the 2nd string. The Bb chord diagram shows the 1st fret on the 1st string. The F chord diagram shows the 1st fret on the 1st string.

The staff shows the following notes: Amin (5th fret, 2nd string), F (1st fret, 1st string), G (3rd fret, 3rd string), Amin (5th fret, 2nd string), Bb (1st fret, 1st string), and F (1st fret, 1st string).

Chord diagrams for Amin, Bb, F, and G chords are shown above the staff. The Amin chord diagram shows the 5th fret on the 2nd string. The Bb chord diagram shows the 1st fret on the 1st string. The F chord diagram shows the 1st fret on the 1st string. The G chord diagram shows the 3rd fret on the 3rd string.

The staff shows the following notes: Amin (5th fret, 2nd string), Bb (1st fret, 1st string), F (1st fret, 1st string), G (3rd fret, 3rd string), and G (3rd fret, 3rd string).

**Keyboard** – A セクションは全音符ですが、4小節、8小節パターンになるような音の積み方で大きな流れを考えてみましょう。

**1.2**

The musical score is written for a single staff in treble clef with a 4/4 time signature. It consists of 17 measures. The notes are primarily whole notes, with some measures containing half notes or quarter notes. The key signature is one flat (Bb). The score is divided into measures by bar lines. Measure numbers 1, 5, 9, 13, and 17 are indicated at the start of their respective lines. Chord symbols are placed above the notes: C, G, F, C, F, Dm, G, Am, F, G, Am, Bb, F, Am, Bb, F, G, and C. The score ends with a double bar line and the instruction 'D.S 1.2 al Coda'.

1 C G F C

5 F Dm G

9 Am F G Am Bb F

13 Am Bb F G

17 C

D.S 1.2 al Coda

**Bass** - シンコペーションのフレーズ時にも1拍目のビートを意識する。A セクションと B セクションの差異はダイナミクスを意識して表現。8 Beat Rock Bass だけ8分ぐいしてるところがあるので注意。2 小節で1つのグルーヴを感じ作れるようにプレイする。

**A**

**B**

**C**

**Drums** - シンプルな8ビートで再度音源の一致感を確認してみよう。フィル後やシンコペーション時のキックとシンバルの合致をより強く意識するように。バックビート(スネアの2,4)を少し重くしたり、キメを少し突っ込み気味にプレイする等、表情をつけることにテーマを見つけてほしい。

♩ = 130

*Fill*

**A**

4

8

**B**

*Fill*

*D.S. al Coda*

*Fill*

*Fill*

3

3

## Chapter 12 -

The musical notation for the guitar solo is as follows:

- Staff 1:** Treble clef, key signature of one sharp (F#). Chord C is indicated above the staff. The melody consists of eighth-note runs: C4-D4-E4-F#4, G4-A4-B4-C5, D5-E5-F#5-G5, and A5-B5-C6.
- Staff 2:** Treble clef, key signature of one sharp (F#). Chord A7 is indicated above the staff. The melody consists of eighth-note runs: A4-B4-C5-D5, E5-F#5-G5-A5, B5-C6-B5-A5, and G5-F#5-E5-D5.
- Staff 3:** Treble clef, key signature of one sharp (F#). Chord D7 is indicated above the staff. The melody consists of eighth-note runs: D4-E4-F#4-G4, A4-B4-C5-D5, E5-F#5-G5-A5, and B5-C6-B5-A5.
- Staff 4:** Treble clef, key signature of one sharp (F#). Chord G7 is indicated above the staff. The melody consists of eighth-note runs: G4-A4-B4-C5, D5-E5-F#5-G5, A5-B5-C6-B5, and A5-G5-F#4-E4. The text "repeat 4 times" is written above the staff.
- Staff 5:** Treble clef, key signature of one sharp (F#). Chord C is indicated above the staff. The melody consists of eighth-note runs: C4-D4-E4-F#4, G4-A4-B4-C5, D5-E5-F#5-G5, and A5-B5-C6. The text "Guitar Fill" is written below the staff.

Guitar –



**Keyboard** - リズムギターとユニゾンフレーズになるが、音の長さなどで遊びを加えたりフィルに参入することもあり。

**Bass** - Beat Country 2/2 表記で譜面の流れが以外と速いので注意し、コードチェンジするところにラインを入れて演奏します。ベーシックはリズムギターとのコンビネーションで疾走感をキープする。リピートごとにシンコペーションのパターンなど考えてみても良い。

The image shows a musical score for Keyboard and Bass parts. The top staff is for the Keyboard, written in bass clef with a 2/2 time signature. It starts with a C chord, followed by a measure with a slash and a repeat sign, then another measure with a slash and a repeat sign, and finally a measure with a 'simile' marking and a repeat sign. Below the Keyboard staff are two empty staves for the Bass, labeled A7 and D7, each with a slash and a repeat sign. The bottom staff is for the Bass, written in bass clef with a 2/2 time signature. It starts with a G chord, followed by a measure with a slash and a repeat sign, then a measure with a slash and a repeat sign, and finally a measure with a 'x 4' marking and a repeat sign. The bottom staff is for the Bass, written in bass clef with a 2/2 time signature. It starts with a C chord, followed by a measure with a slash and a repeat sign, then a measure with a slash and a repeat sign, and finally a measure with a 'x 4' marking and a repeat sign.

Bass Variation :

The image shows a musical notation for a Bass Variation. It is written in bass clef with a 2/2 time signature. The notation starts with a C chord, followed by a measure with a slash and a repeat sign, then a measure with a slash and a repeat sign, and finally a measure with a slash and a repeat sign.

**Drums** - カントリーテイストのジャンプナンバー。4/4 ではなく 2/4 で表記されている事に注目。細かい刻みを大きなタイム感でプレイすること。デモではタムのリムをコンビネーションで入れているが、別に違う音源でも構わない。実際のカントリーミュージックでは、ハネないでイーブンフィールでプレイされている場合も多く見られる。

$\text{♩} = 125$  *Fill*

- 
-

## Chapter14

**Bass** - 2 Beat を感じてソフトなタッチでプレイ。コードとコードの繋ぎ目を大切にし、ラインなどを入れて演奏する。

**Drums** - ブラジル音楽（サンバ等）をルーツとしたワールドスタンダードなグルーヴである。譜面はポップスシーンでよく目にする表記のパターンで、リーディングの際リズムフィールと右に進む早さのバランス感に慣れる事。ボサノバにおいては、ほとんどフォルテプレイは必要なく、滑らかに刻むように心がけるように。3 拍目に少しテヌート感を出すとネイティブなフィールが出しやすい。

**A**

$\text{♩} = 120$

*simile*

4

8

**B**

*D.S. al Coda*

*Fill*

4

o